

| 観点    | ねらい  | 内容   | 資料   | 指導上の留意点  | 中学校との関連   | 選択科目との関連   |
|-------|--|--|--|--|---|--|
| 青年の心理 | <p>○ 若者文化と現代社会との関係について考えさせるとともに、若者文化が青年の人間形成にどんな意味をもつのかを考えさせる。</p>                             | <p>2 若者文化と現代社会</p> <p>(1) 若者の意識の変化</p> <p>(2) 若者の行動の諸問題</p> <p>(3) 若者文化と人間形成</p> | <p>○ 「青年の社会に対する満足度」・「積極的に行動をとらない理由」(総理府青少年対策本部編『日本の青年』P98, P100～102)</p>   | <p>○ 若者気質の特徴といわれるシラケ、漂泊、ドレイ、ドロップ・アウト、解体、反抗などについて自己の人間形成の視点から考えさせるようにする。</p>  |   |  |
|       | <p>○ 青年期は一回限りのものであり、自らの責任で精神の自立をもちとるよう自覚させる。</p> <p>○ 友情について考えさせ、人生において良き友を得ることの重要性を認識させる。</p> | <p>1 青年期と精神の自立</p> <p>(1) 反抗と甘え</p> <p>(2) 自我のめざめ</p> <p>(3) 孤独と友情</p>           | <p>○ 「反抗期」(フィルムライブラリー1029 30分)</p> <p>○ 『次郎物語』(下村湖人著 ボプラ社 P45～48)</p> <p>○ 「エミール」(『世界の名著』(HR)ルソー 中央公論社 P463～466)</p> <p>○ 「青年中期」(HR 116)</p> | <p>○ 若者文化の特性は、青年心理の特徴と深くかわりありあっていることに留意して指導する。</p> <p>○ 生徒自身の体験に即して、青年期の問題を自己の問題として考えさせる。</p> <p>○ 「青春と友情」(HR 86)を見せるのも一つの方法である。</p> | <p>(道徳) 10 「友情の尊さを理解し、心から信頼できる友達をもち、互いの向上を図る」(友達は、互いに相手を敬愛し、相手の向上を願って助け合うとともに、いたずらに友達に追従することなく忠告し励まし合う真の友情を育てるように努める)</p> | <p>(倫理) 内容 (1) 人間の自覚</p> <p>ア 自己探究と思想の源流</p> <p>○ ギリシアの思想、キリスト教、仏教、儒学などの基本的な考え方と人間の自覚についての意義について指導する。</p> <p>(倫理) 内容 (3) 現代社会と倫理</p> <p>イ 思索と倫理的自覚</p> <p>○ 青年の自己探究の課題として、人生観・世界観の形成、価値の探究と自</p> |
|       | <p>○ 男女相互の立場を正しく理解させ</p>   | <p>2 愛と性</p> <p>(1) 青年と愛</p>   | <p>○ 「ブッシュ・孝子」の詩集『白い木馬』</p>  | <p>○ 『青少年白書』(総理府青少年対策本部編 昭</p>   | <p>(道徳) 11 「男女は、互いに相手の人格を尊重し</p>  |  |